農学国際教育協力研究センター（ICCAE）からの問題提起

― ICCAEの役割とオープンフォーラムでの討論の方向について―

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
松本　哲男

1．ICCAEの目指すもの－ヴィジョン

ICCAEは、1999年４月創設され、インターナショナルと名称されているが、現在の実態はローカルである。2002年３月までには、少なくとも全国的なネットワークを構築すると共に全国のセンターとして機能出来るだけの能力を持つこと、2004年３月までには、国際的なネットワークを構築し、海外からの窓口になれるだけのネットワークと能力を身につけることを目指す。

2．ICCAEの研究領域の事業内容説明

ICCAEにはプロジェクト開発研究領域と協力ネットワーク開発研究領域がある。プロジェクト開発研究領域は、①人づくりのためのプロジェクトの発掘、開発と提言、②JICA、大学プロジェクトの分析、評価、人材派遣、③途上国研修員を対象とする研修の企画と実施を、協力ネットワーク開発研究領域は、①データベースの活用とコーディネート手法の開発、②プロジェクト・マネージメント手法の開発、③コンソシアムとネットワーク形成、④派遣専門家への派遣前研修の企画と実施をおこなっている。

3．16､17日で討論していただきたいこと

討論１）途上国のニーズをどう把握するのか？

農工大の報告要約の中に、発展途上国との教育協力を進めるには、双方が、何がニーズか把握する必要がある、と述べており、また、派遣専門家のプロジェクトの目的に対する認識、教育改善か研究か一致させることの重要性を上げている。岩手大は、人づくりのフォローアップが必要と指摘している。このような皆さんの豊富な経験を報告していただき、討論を通して真のニーズ把握の方法の確立を目指したい。

討論２）協力活動の意思を持つ人材をどう活用するのか。

各大学での窓口の形成：いくつかの大学では、すでに国際交流委員のような組織が作られているが、組織のない大学には、人づくり協力のための窓口を作って頂けるかどうか。ICCAEは、各大学の窓口と連絡をとれるようにすると共に全国の大学の窓口を目指す。

拠点校－コンソシアム方式の発展：この方式をどんどん伸ばしていただきたい。ICCAEは、是非、この組織を活用させて頂きたい。

人材データの活用：拠点校方式に加わっていないが協力活動の意思をもっている研究者をどう組み入れるか。ICCAEには全国の研究者1148人が登録されている。岡山大から、ICCAEとリンクするなら、同じ様式にしたいということでアンケート用紙とデータベースの見本の送付要請があった。

共通項の検討：もし、この会議で合意できれば、将来のデータベース・ヴァージョン２は共通項の部分について、主要大学で担当者を選び、協議をしたい。

情報の道筋の形成：ICCAEからの情報提供方法を検討していただきたい。一つの案は、ツリー方式で、窓口の中にフォーカル・ポイントの方を決めていただき、双方に情報をやり取りし、そこから学内に

送ってもらう。

人材の活用：人の出やすい仕組み作りをどう作るか？

既存の研究者の活用：岡山大から、教官OBを対象とした「全国代替講義派遣機構」の提案があった。他にもどしどしアイデアを出していただきたい。

長期派遣をどう確保するか：各大学、JIRCASは、若手研究者をどう確保しているのか報告していただきたい。

ポスト・ドク、院生の派遣の可能性：九大、京大からは特に院生を海外に送ってい研究活動を行っているが、その方法を学びたい。JIRCASには、正式ではないが、現地で仕事をやる意志を持っているポスト・ドク、院生に、全体の開発研究テーマの中の一部を担いでもらい、その仕事が学位論文になれるような仕組みがあれば、大学の要請に対しいつでも受け入れる旨の意向があるようである。

後継者づくり：この分野の国際研究者の育成が強く望まれているが、どうすれば実現できるか、意見があれば、ぜひ伺いたい。

二日間の討論の中で、皆さんがICCAEをどう活用していただけるのか、伺いたい。

討論３）人づくり協力に関わる学問をどう築くのか。

個別分野の総合化、学際領域の組織化などの意見が、農工大から、当事者だけでなく組織の業績として評価することの重要性が九大からでている。どなたか仮説をお持ちの方は、是非出していただきたい。

ICCAEの目指すもの

平成12年3月16日
名古屋大学農学国際教育協力センター
松本　哲男

ICCAEのビジョン

ネットワークの形成を通じて、発展途上国が直面する農学分野の問題を解決する人づくり協力の

ナショナルセンターになる……2002年3月までに
インターナショナルセンターになる…2004年3月までに

プロジェクト開発研究領域

- 人づくりのためのプロジェクトの発掘、開発と提言
- JICA、大学プロジェクトの分析、評価、人材派遣
- 研修の企画、実施

協力ネットワーク開発研究領域

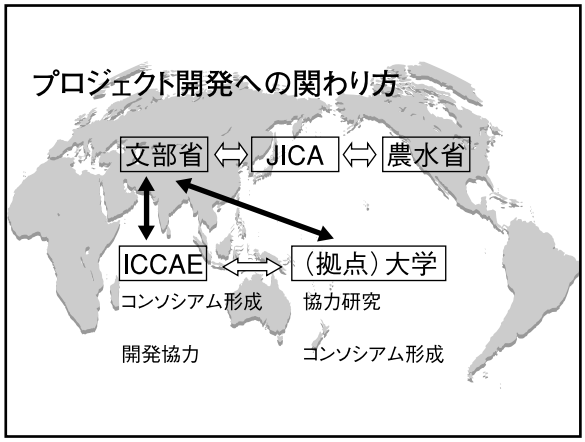
- データベースの活用とコーディネート手法の開発
- プロジェクト・マネージメント手法の開発
- コンソシアムとネットワーク形成
- 派遣専門家への研修の企画、実施

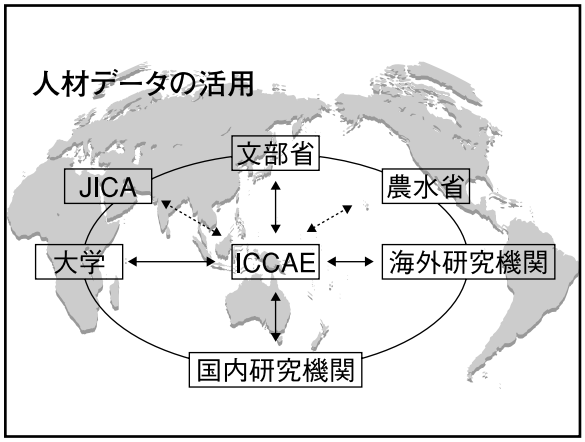
討論

1）途上国の協力ニーズをどう把握するのか？
双方に必要
人づくりのフォローアップ
討論を通じて真のニーズの把握方法の確立をめざす

討論

2）協力活動の意志をもつ人材をどう活用するのか？
各大学での窓口の形成
個人の経験を組織に蓄積
拠点校ーコンソシアム方式の発展
人材データの活用
共通項の検討
情報の道筋の形成
人材活用





ICCAEの目指すもの

記入年月日 1999/09/10 Number
氏名

個人情報

氏名のローマ字
性別 ◉男 ○女
生年月日
所属分類 1.国立大学
所属先 名古屋大学大学院 生命農学研究科
生物圏資源学専攻
所属研究室 食糧生産管理学研究室

職名 教授

郵便番号 464-8601
勤務先住所 愛知県名古屋市千種区不老町
勤務先電話番号
勤務先fax番号

連絡先電話番号
連絡先fax番号

電子メール

個人情報
研究について
専門家派遣
研修員受け入れ
同意書

記入年月日 1999/09/10 Number
氏名

専門分野 選択肢 81,92,94
記述 農業普及活動の機能と形態。農業発展と地域営農支援システム。

開発途上国研究 経験 ◉あり ○なし
内容 アジアにおける伝統的水利の構造・材能・位置付け。伝統的

外国語能力 英語 普通 ロシア語 不可 その他の言語
フランス語 不可 ドイツ語 ある程度 1
スペイン語 不可 アラビア語 不可 2
中国語 不可

海外経験 ① 国名: 期間: 西暦 ～
目的:

② 国名: 期間: 西暦 ～
目的:

教務経験 ◉あり ○なし
内容: カリキュラム委員, 学生生活委員, 図書出版委員, 評議員等

個人情報
研究について
専門家派遣
研修員受け入れ
同意書